

桐生市議会 経済建設委員会 行政視察報告書

視察都市 鳥取県境港市 (人口 32,132 人)

視察日時 令和 7 年 10 月 27 日 (月)
午後 3 時 00 分 ～ 午後 4 時 30 分

訪問場所 境港市役所 鳥取県境港市上道町 3000
電話 : 0859-47-1097

参加者 丹羽孝志 久保田裕一 人見武男 岡部純朗
飯島英規

視察項目 ・水木しげるロードによる中心市街地活性化について
・水木しげるロード現地視察

■視察概要

視察項目 ・水木しげるロードによる中心市街地活性化について

(1) 説明要旨

・説明担当者及び対応者

境港市議会 副議長 田口俊介 様

境港市 産業経済部 観光振興課長 片岡直人 様

・境港市の概要

境港市は長さ約 20km の弓浜半島の北端に位置しており、人口は約 3 万 3 千人 (桐生市のおおよそ約 3 分の 1)、面積約 29 km² (桐生市のおおよそ 1/10) と、5 km 四方の小さな都市である。三方が海に開けており、全国第 3 位の魚水揚げ量と水木しげる先生の出身地として知られている。境漁港と重要港湾である境港、そして米子鬼太郎空港という三つの港を有していることも大きな特徴で、海と空に開かれた交通結節点の街となっている。



↑視察の様子



↑集合写真

●水木しげるロード整備に関して

・ 全体の特徴

本事業は観光振興事業ではなく、国土交通省所管の都市計画事業を軸としたまちづくりである。“歩行空間の質向上”を中心に、都市空間そのものを再構築した点が特徴となっている。

・ 第1期（平成2～8年）：都市計画事業による初期整備

土地区画整理事業・都市計画道路事業を活用して中心市街地の骨格を再編。駅前広場の整備、駅から商店街につながる街路約800mの拡幅を実施した。アーケードの改築・撤去、公共トイレ・駐車場・歩道橋・ポケットパークを新設したほか、歩道に絵タイル、看板、妖怪オブジェ80体、妖怪レリーフ5基を設置。人にやさしい、滞在しやすい歩行者空間の形成を目的とした整備内容となる。妖怪コンテンツの導入は、都市計画的な公共空間整備に“付加される形”で展開した。

・ 第2期（平成25～30年）：リニューアル事業（都市再生整備事業等）

「都市再生整備事業」「街路改修」「高質空間創出事業」により街路空間を全面リニューアル。一方通行化により車道を縮小し、歩道を大幅に拡幅した。道路線形を見直し、回遊性・歩きやすさを向上するとともに、地域素材・来待石を用いたオリジナル舗装平板を開発・採用。妖怪的樹形の「枝垂れエンジュ」を列植し、テーマ性のある景観を創出した。ブロンズ像は第一期と合わせて178体を、ストーリー性を持たせる形で再配置。また、

夜間のにぎわい創出のため、照明演出「ナイトミュージアム」「妖怪影絵」を導入するなど、街路そのものがエンターテインメントとなる質の高い空間づくりを実施した。

・成果について

来街者数がV字回復し、リニューアル初年度に大幅増加し、初年度の一次経済波及効果 250 億円超を記録。空き店舗が解消し、商店街の自律的再生が進んだ。照明演出「ナイトミュージアム」「妖怪影絵」などの導入により“滞在型観光地”として夜間のにぎわいも創出された。公共空間整備によって恒常的な魅力向上が実現した。

・まとめ（本事業の意義）

中心市街地活性化において、都市計画的アプローチが効果を発揮した稀有な事例である。空間整備を先に行い、その上に地域資源（妖怪・水木しげる作品）を乗せる構造が成功の鍵となっている。観光・商業支援だけでなく、公共空間の“質”の向上が持続的活性化につながることを示したモデルである。

現地視察の様子



(2) 主な質疑応答

事前質問

Q 観光客の受け入れ態勢について。ターゲット層はどのようなものか。

A そこまでターゲットを絞っている訳ではない。親子 3 代で訪れる方も多い。新作アニメの公開などもあり、若い女性なども訪れている。

事前質問

Q プロモーション戦略について。どのような活動を行っているか。

A ロードのブロンズ像が壊されてニュースになったことが話題になる最初のきっかけだった。そして、平成 15 年の水木しげる記念館の設置が大きな転機となった。その後、NHK の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の放送や、平成 16 年にスポンサーの募集（1 体 100 万円）をして銅像を増やすなど話題作りを行ってきた。市も観光協会も連携して SNS などの情報発信をしている。その他、土曜夜市を復活させたり、水木しげる生誕祭（3 月 8 日）を実施したり、魚とのコラボ（夏はクロマグロ、冬はカニ）など様々な取り組みを行っている。

事前質問

Q SNS の活用は。

A 観光協会や水木しげる記念館などそれぞれが SNS を行っている

事前質問

Q 地域活性化と連携について。地元住民と観光業との連携は。

A 水木しげるロードの 800m が商店街となっており、水木しげるロード振興会を組織している。地元の小学生が課外授業として訪れている他、観光ボランティアの会がボランティアの観光案内を行っているなど、住民との連携も行われている。

事前質問

Q 地域経済への影響はどのように表れているのか。

A さびれた商店街から観光地になり、空き店舗が解消してきている。

事前質問

Q 定期的に行われているイベントやアトラクションなどはあるのか。

A お祭りや、夜市、妖怪ハロウィン、生誕祭など多数の取り組みが行われている。日常的なイベントとしては、任期付き任用職員を市で採用して着ぐるみを出没させており、偶然に会えるというサプライズを提供している（はい実は1体、土日は2体など）。第一、第三日曜日は記念館で撮影会も行っている。水木しげる記念館はリニューアルを期に戦争を大きなテーマに据えてプログラムを見直した。平和学習プログラムとして1時間番組を作って小学生に視聴してもらっている。修学旅行や校外学習のプログラムとして営業をかけているところである。

事前質問

Q 施設とインフラ整備はどのように行われているのか。

A 整備は当初4億でロードを整備、その後リニューアルに13億円かかっている。水木しげる記念館についてはDBO方式を採用し、市がお金を出して民間事業者が施設の設計と運営を行っている。

事前質問

Q バリアフリーなどの配慮について。

A 水木しげるロードをリニューアル時に一方通行化を行い、歩道を広げた。その際に歩道と車道の段差の解消を行った。

事前質問

Q アクセス面について。

A 車で来る方が多いことから、駐車場のキャパが足りないことがある。お盆やGWには市役所の駐車場を開放し、市職員が誘導している

事前質問

Q 持続可能な観光、環境への配慮など。

A 歩行空間の拡大などの環境整備や、一般社団法人環境育成協会主催によるゴミ拾いの活動、ゴミ拾いフェスティバルの実施などの取り組みがある。

飯島

Q ブロンズ像のスポンサーについて、金額の差などはあるのか。

A 基本が100万円で全国からスポンサーが手を挙げてくれている。

人見

Q ロードの管理運営について 助成金などは出しているのか。

A ブロンズ像は設置管理、トイレの清掃など、大体年間 2,000 万円くらいの管理費がかかっている。着ぐるみのおもてなしの事業には 1,300 万円くらいの予算をかけている。

人見

Q ホテルはどのくらいあるのか。

A 平成 28 年にホテルを駅前に誘致した。年間 7～8 万人の宿泊がある。周辺に大きな街があるので、宿泊需要の拡大は難しい。

久保田

Q 地元住民の温度感はどのようなものか。

A 平成元年に緑と文化のまちづくりの際に水木しげる先生も呼んで、構想が持ち上がった。都市整備的な要素もあって実施をしたが、当初は反対の声もあった。

久保田

Q 最初の整備費用の原資は。

A 宝くじ助成金として約 3,000 万円を活用した。

久保田

Q 商店街組織は存在するか。

A あとから振興会が出来上がった。60 くらいで組織している 100 店舗ほどあるので入っていないところもあり温度差はある（加盟率は 7 割くらい）。理事の皆さんと市役所との交流は多い。

岡部

Q 観光に関する主導権はどこが握っているのか。

A 観光協会や水木しげるロード振興会が中心に担っている、商工会議所はそこまで先頭ではなく構成員となっているような状況。生産者や漁業も連携している。

(3) 参考となる点及び課題

- ・水木しげるロードにおけるまちづくりは、一般的な観光振興や商店街イベント中心の取り組みとは大きく異なり、国土交通省所管の都市計画事業を基盤にした“空間再編型のまちづくり”である点に特徴がある。
- ・妖怪の銅像は一つのコンテンツであり、根底には人が歩きやすく滞留しやすい公共空間整備がメインに据えられている。観光振興ありきではなく、都市計画的な公共空間整備が先にあり、それがコンテンツ展開の土台となっている。
- ・一方通行化により歩道が拡大し快適な歩行空間の確保を実現している点は、桐生市においては重伝建地区の本町通りなどのまちづくりにおいて参考となる事例である。
- ・街路空間そのものを“観光コンテンツ”として設計する都市計画的思考が導入されている。
- ・照明を用いた夜間演出を公共空間として実施した点は、ナイトタイムエコノミーの充実の観点でも戦略的な演出を実現した好事例という。
- ・駅前へのホテル誘致により年間7～8万人の宿泊需要を生み出しており、桐生市においても新規のホテル誘致による宿泊需要の掘り起こし策は参考となると言える。
- ・境港市は港と空港、鉄道という交通結節点にあり、水木しげるロードという観光資源により周遊観光客を上手く取り込むことに成功しているが、桐生市においてはアクセス面での向上が課題となる。

◎視察成果による当局への提言または要望等

境港市の水木しげるロードによる活性化施策はイベントやアーケード整備などの単純な商店街支援策だけでは成し得ない大きな成果が出ており、その背景には、都市空間を大胆に更新し、人が歩きたくなる環境を創り、その上に水木しげるという強力なコンテンツを重ねたという都市計画的なプロセスがあります。「都市計画事業による空間整備」と「地域資源を活かした唯一無二のコンテンツ」を掛け合わせた結果で成立したものであり、観光や商店街の施策に偏らずに「まちの空間」を基礎から整備したことが、持続的なにぎわいと広域観光の集客力につながっているという点は桐生市においても参考になるものと考えられます。境港市の手法に学ぶ中で、桐生市における商店街や重伝建地区の街区整備に対して、歩行空間の確保や回遊性の向上などの視点と共に、桐生市の強みを活かしたコンテンツを掛け合わせた整備手法の導入について研究することを提案いたします。その際、都市計画や都市基盤整備に関する予算の活用についても部局を超えた連携をする中で推進されていくことを望むところです。

また、水木しげるロードにおいて照明を用いた夜間演出を公共空間として実施した点は、ナイトタイムエコノミーの充実の観点でも戦略的な演出を実現した好事例と言えます。更には、駅前へのホテル誘致により年間7～8万人の宿泊需要を生み出しており、桐生市においても宿泊滞在者が楽しめる夜のコンテンツの情実や新規のホテル誘致による宿泊需要の掘り起こし策は有効であると考えます。境港市の事例を参考にすることで、宿泊滞在先としての魅力づくりについても具体的な施策の推進を行っていただくよう要望いたします。